

ムラタとは

価値提供の歴史

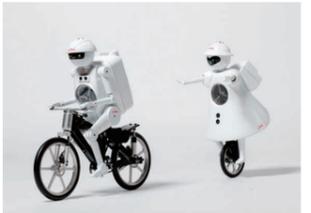
エレクトロニクスの進化は、人々の生活を豊かにし、さまざまな夢を実現してきました。その歴史の推進力のひとつが、ムラタの電子部品です。その時代に必要だったもの。次の時代の夢を象徴していたもの。電子部品もまた、時代を語っているといえるでしょう。そして、時代を語るものは、また、静かに未来を語り始めるのです。



ロボットの歴史

ムラタの電子部品を搭載したロボットで、子ども達をはじめとする多くの人に電子部品の働きを伝えてきました。

- 1991年 初代ムラタセイサク君
- 2005年 二代目ムラタセイサク君
- 2008年 ムラタセイコちゃん
- 2014年 村田製作所子アリーディング部



ムラタセイサク君とムラタセイコちゃん

1940年代 創業

ラジオの民間放送開始
などにより通信機器が普及

- 1944年 村田製作所創業
- 1949年 ラジオの温度補償用のチタン酸バリウム磁器コンデンサを日本で初めて量産



チタン酸バリウム磁器コンデンサ

1950年代

白黒テレビの普及や
電信電話市場が拡大

- 1950年 株式会社村田製作所設立
- 1953年 円板コンデンサの製造開始
- 1955・56年 村田技術研究所を設立・移転
- 1959年 セラミック半導体のPTCサーミスタ「ボジスタ」誕生



PTCサーミスタ「ボジスタ」

1960年代

カラーテレビ放送開始、
東京オリンピックでの好景気で
電子部品の需要拡大

- 1962年 通信用セラミックフィルタの製品化
- 1966年 積層セラミックコンデンサの誕生
- 1967～69年 積層セラミックコンデンサの量産体制確立



積層セラミックコンデンサ

1970年代・1980年代

アメリカのCBトランシーバーブーム、
国内のオーディオ&ビジュアル機器や
自動車電話（携帯電話）、情報機器の市場拡大

- 1975年 マイクロ波用誘電体フィルタ「ギガフィル」誕生
- 1977年 セラミック発振子「セラロック」の製品化
- 1986年頃 チップフェライトビーズの製品化
- 1989年 多層LCフィルタの製品化

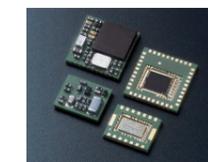


チップフェライトビーズ

1990年代・2000年代

携帯電話の小型化、パソコンの普及により
インターネット時代の到来

- 1997年頃 スイッチプレクサの製品化
- 2000年頃 Bluetooth®モジュールの製品化
- 2004年 0402 (0.4×0.2mm) サイズの積層セラミックコンデンサの開発
- 2005年 MEMSジャイロセンサの製品化



Bluetooth®モジュール

2010年以降

スマートフォンを中心とした通信分野拡大、
自動車の電装化の進展

- 2012年 0201 (0.25×0.125mm) サイズの積層セラミックコンデンサの開発
- 2017年 電池事業の拡大・強化



積層セラミックコンデンサ

77,571人

1兆5,750億円

■ 売上高 ■ 期末従業員数
※連結ベース

1944 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2018 (年度)

Bluetoothは、Bluetooth SIG, Inc.の商標です。